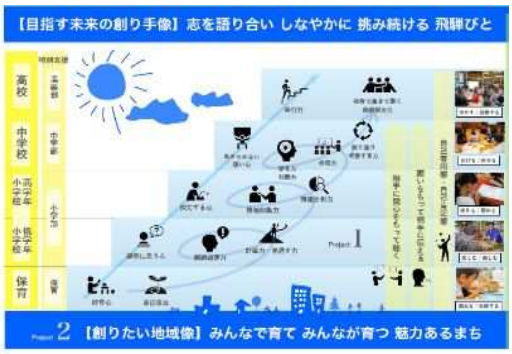
「飛騨市学園構想」の推進

～　志を語り合い　しなやかに挑み続ける飛騨びとの育成　～

飛騨市教育委員会学校教育課

１　はじめに

予測困難と言われる現代・未来の社会。子どもたちが「未来の創り手」として活躍するために必要な資質・能力の育成を学校のみで行うことには限界がきています。飛騨市学園構想は、子どもたちを真ん中に「社会総がかり」で必要な資質・能力の育成を図ろうとするプロジェクトです。関わる全ての大人が自分事として、「１８年間の育ち」や関わり方を熟議し、共有し、協働することを大切にします。子どもも大人も場所も、様々な枠を越えてみんなが一つにつながることから「飛騨市学園」とします。



飛騨市学園ビジョン（2019 検討委員会策定）
「飛騨市で育つ子どもたちにつけたい力」

子どもたちが本来もっている自ら伸びる力を発揮できる子どもたちの視点に立った子どもが主体の学びと、教科と社会をつなぐ課題解決型の学びを創り、社会で活用できる資質・能力を育てます。そのために、子供たちの成長に沿った保育園から各学校へつながる縦の連携と、家庭や地域、その先へと広がる横の連携を高め、子どもたちの学びと人をつなぐ仕組みを創ります。

２　「飛騨市学園構想」の推進に向けた具体的な取組

飛騨市学園構想推進委員会では、令和元年度に策定された「学園ビジョン」を受けて、学園構想の基盤づくりとして、令和２年度より３年間で推進する「３つのプロジェクト」に取り組んでいます。

（１）１５年間をつなぐ課題解決型学習の実施
（２）地域と学校の持続可能な協働体制の整備
（３）校種間など多様な交流学習の推進

学園構想コア会議（月１回開催）
「創り手・地域づくり」への熟議を行います。

（１）活動ベースから資質能力ベースの授業・教育活動づくり

子どもの育ちの道筋から１８歳までにつけたい力をまとめた「資質・能力マップ（上図）」をもとに、小中学校では「総合的な学習の時間」において、活動ベースから資質能力ベースのカリキュラムを編成し、実践を進めています。子どもたちが自分の関心や問題意識等からテーマや課題を設定し、解決方法を考え、調査・発表する課題解決学習を進めています。多様な分野に渡る学びとなるため、多くの地域住民が参加しています。

地域の講師からは、ふるさとの「知識」だけでなく、ふるさとを愛する熱い思いも学びます。

昨年度から、各校の特色あるカリキュラム（古川小「古

川やんちゃ学」、神岡中「神岡 FIELD 学」、河合小「SOUZOU 学」等）が編成・実施され、今年度さらに充実してきました。

（２）子どもたちの熱い思いをかなえる地域学校協働活動「山っ子ブランド販売会」

山之村小中学校では、「ふるさと学習」で、地域の特産物の魅力を調査してきました。その中で、この地域の素晴らしさを実感し、山之村地域の存続のために、市内外にこの素晴らしさを広めたいという熱い思いをもちました。この思いの実現に向けて、地域（農家や牧場等）と学校が協働し、販売会の実現に向けて支援しました。子どもたちは、この販売会を通してコミュニケーションの大切さと、さらなる地域貢献への思いをもつことができました。

地元商品の素晴らしさを、お客さんに
一生懸命説明（PR）します。

市内では同様な活動が、河合小「河合っ子マルシェ」や神岡小「ひだっ子キャンプスクール」等、地域学校協働活動として、子どもたちの思いや願いの実現と資質・能力を高める取組が実施されています。

（３）小中高生が地域防災をより深く学ぶ「防災タウンウォッチング」

この事業は児童生徒が、小・中学校での「防災学習」をより深く学びたいと参加し、高校生と共に地域で五感を使って防災の「ひと・もの・こと」を体験します。児童生徒はこの体験を通して、地域において自分事として防災に関わることを考える機会となりました。さらに、高校生との交流は、小中学生にとって、その姿からリーダーシップも学ぶ有意義な時間となりました。

小中高生（5～6人）のグループで、
町中の防災（ひと・もの・こと）にふれました。

今後もこうした校種間交流を積極的に行い、単に交流だけでなく、個々の資質・能力を高めるとともに、各校での課題解決型学習との往還も目指します。さらに、宮川小児童が、吉城高校写真部に撮影技術を学ぶ交流や神岡中へ飛騨神岡高ロボット部が出前授業をする等、校種間交流を広げていきます。

３　「飛騨市学園構想」の推進に向けた今後の課題

令和４年度は「3 つのプロジェクト」の３年目です。2 年間の成果と課題を踏まえた事業の企画・実施を進めていきます。特に、コロナ禍で思うような交流ができなかった保育園、高校・特別支援学校との連携・協働を進めていく必要があります。

また、今年度 12 月に開催しました、飛騨市教育フォーラム 2021「まなびみらい会議」（市内外の参加者２００名）の目的であった「飛騨市学園構想」を市民にしっかりと周知すること、地域住民が「子どもの育成」に自分事として参画することについては大きな課題であると認識し、課題解決に向けた取組を積極的に進めていきたいと考えています。